

ニュージーランド寸描

藏知技師

目下加本技師が豪州に旅行中であり、本号が出る頃に花尾技師も後を追って出発している筈である。加本技師の第1信が届くのも本号には間に合わないののでその留守中に旧聞に属するニュージーランドの寸描を載せて貰うことにする。次号から加本技師の豪州旅行記でも出て来れば私の記事ももう書けないので、その前に書き足りなかつた点を追記して私の報告を終わりたいと思う。今回は全く寸描で私のメモを拾って書くことにする。

◎税関

何処の国でもそうらしいが、税関と言う処は喧しい処に決っているらしい。然しそれも船の方と飛行機では大分差があるらしい。飛行機の方は殆ど旅行者ばかりであり、手荷物も重量で制限されているので大した検査もしないでパスするらしいが、船の方はそうはいかないで検査も厳重である。船員の方は船を宿泊所に行っているので大して喧しくも無いらしいが一般旅行者の荷物検査は相当なものであると聞いていたし、又豪州では身体検査迄されたと言うことなので、吾々もその覚悟で居たし、荷物の中味を申告する為にメモをしたりして準備していたが、いざ到着して検査の段になると、申告書は一応呉れたが、吾々が牛の護送人であることを知ると船員並の取扱いにしてくれて、パスポートに入国承認の印を一つ押しただけでオーケーである。これにはいささか驚いてしまった。この国で一番喧しいと言われているオークランドでこの調子である。先着港で入国承認を取れば後は文句なしにフリーパスである。ところがさて入港2日目に上陸してホテルに泊まることになり各々泊り道具を持って税関の所迄来ると御老人がニコニコしながらやって来てチケットを見せろと言う。通訳も居ない吾々ばかりであるからそのチケットが何のチケットかさっぱり判らない。すった、もんだしたあげく先方も言葉がよく通じないので閉口して通して呉れたのでホットしたが、実はこのチケットと言うのは荷物を申告して所持品の許可証のことなのである。そんなものは持つ

てないし、正式に言うと吾々がホテルに泊るのもいけないわけである。然し言葉がよく通じないお蔭で通ってしまつて、堂々とホテルに入って泊ってしまった。全く知らぬが仏で、無知な者程強い者は無い。オークランドですらこれであるから後の税関は全くフリーパスで何処に税関があるのかも知らずに通つた処が多い。ウェリントンではさすがに荷物を一寸検査されたが、公使へのお土産物だと言つたら文句なしに通つてしまつた。オークランドとウェリントン以外の港へ先着港として船が入つたら税関の方でまごつくそうで、船の人が教えてやるそうである。それ位呑気な国である。然しそれでも南の最終点であるダニデンに入港した時には、続々と税関の連中が入つて来るし、なかなか船から出ようとしないので不思議に思っていると、丁度反対側に台湾の船が入っている。日本のセメントを積んで門司から入つたのであるが、この船が密輸入をやっているらしいと言うので、反対側の日本船からそれを監視していたのであつた。何んでも貴金属類を挙げられて大分搾られたらしいが、何事もなければ全く呑気な税関である。心配していたニュージーランドの税関より反つて日本の方が喧しく、持物一切を検査され、申告迄やらされて大変であつた。これが香港にでも寄港していたらもっと大変だそうである。小国になる程検査が喧しいと聞いている。観光客を誘致したい日本等はもっと考えなければならぬ点であると思う。

◎映画

映画館と言っても日本と同じ様に一番館の立派なものもあれば二番館三番館とお粗末なものも多いのであるが、然し総体的には中はなかなか立派なものである。通路には絨毯を敷き、ゆったりとした座席で座り心地は良い。上映している映画は何処も同じで、殆ど米映で西部劇等がもてるらしい。オークランドではシネマスコープもやっていて、一行の中には初めて見たと言う者もあり感心していたが日本の現状からすれば決して珍らしいものでもないわけである。變つて

岡山畜産便り 1956.03

いるのは上映は昼夜2回であることと、日曜日には絶対上映しないことである。日本ならば日曜日は書入れ日で、朝10時から連続上映であるが、その日曜日が休みなのである。旅行者にとっては全く淋しい日曜日であり、退屈な一日であるわけである。

映画館で一番面喰うのは最初にゴッド・セーブ・ザ・クイーンの家と共にクイーンの御姿が大きく写し出されることである。その御姿は決して一様ではなく、各映画館によって異なるし、又時期によっても異なるらしいが、然し何にしてもクイーンの御姿が写されている間は会衆一同は起立してこれをお迎えするのである。この時に聞くゴッド・セーブ・ザ・クイーンはなる程自分は英国人の中に居るんだなあとという気分になる。ニュージーランドと英国とは自治領であると言うだけであって法律的には何等連りは無いのである。然もこの様に女王に対する尊敬は全く彼等の母国に対する郷愁の他何物でもないわけである。こんな処にも彼らの気質が表われていて面白い。

オークランドの映画館に入った時に驚いたことは幕間の1時や、開演前の時間に、日本ならばせいぜいレコードを聴かせてくれるところを、実にすばらしいパイプオルガンを聴かせてくれたことである。それもステージの隅にパイプオルガンを乗せた廻転舞台があり、音楽の流れと共に突然スポットライトを浴びたパイプオルガンと演奏者が廻り乍らステージの上に浮び出して来て、演奏を続けるのである。それが場内に並んだ大小のパイプを通して生の音楽を聴かせてくれるのであるから全くうれしくなったのである。うっとりとして音楽を聴いている内に時間が来ると、その舞台が廻りながら引込むと、スクリーンには字幕が出て来るのである。全くこの効果はすばらしいと思った次第である。

映画館には何処でも喫茶室がついており、入場と同時に通行券を呉れるので、映画の切れ目にはその通行権で出入り自由であるのでお客は皆喫茶室でお茶を飲んだり、冷いものを飲んだりして呑気に映画を楽しんでいるのである。日本の映画館も早く、もっとゆっくりに映画が観賞出来る様になってほしいものである。

◎体重測定器

ニュージーランド人はどうしてこんなに体重が気

になるのか知らんと思う程、体重測定器が置いてある。町の角、公園の中、デパート、郵便局の中等々、町の中なら3町と歩かない内にこの計量器にぶつかるのである。

1ペニー入ると自動的に針が動くのである。それ程体重を気にするのかと一寸おかしくなる。成る程そう思っていると御婦人の肥ったのが多い。特に原住民のマオリの女などは4斗樽に足をつけた様なのが歩いている。

若い女の子はすらりとして実に細くて美しいがマダムになるとこれは又めきめき肥えるらしい。何しろ肉とバターとミルクの安い国である。肥るまいと思っても肥るらしいのである。御婦人が体重を気にする筈である。細長い自分から見ると全く羨ましい限りである。

◎煙草

煙草は自由販売である。従ってその種類の多いのに驚く。吾々の様に味の判らない者には全く猫に小判であるが、煙草の好きな人が行ったら全くたまらないに違いない。色とりどりの包装をした煙草が処狭しと並べられているのを見ると一寸手を出したくなる。販売宣伝もなかなか派手である。大きなポスターを掲げ、新聞広告をして、盛んに売り込みをやっている。普通品は10本入りで50円である。高級品になるときりが無い様であるが、通人に聴いてみると矢張り高級品は無いそうである。そう言えばダンヒルのパイプを探して遂に手に入れることが出来なかったことを考えると一応高級品は使用しないと言う原則がここでも見られたわけである。何処でも自由に販売が出来、美しい包装をした煙草も中味は日本のピースよりまずいと聴いたが、日本のピースはサントリーと共に世界歩きの出来る品だそうである。洋モクに高い金を出す人は御一考願いたい処である。

◎御老人達

ニュージーランドの御老人達程恵まれた老人は世界中でも珍らしいと思う。60才以上になれば年平均1人当たり15万2千円貰え、65才以上になれば更に4万5千円追加され、それに恩給か国民積立貯金年金に加入して居れば年間30万円以上の収入があるわけである。

岡山畜産便り 1956.03

従って至って呑気であって食うことには決して困らないのである。公園等に行けば呑気そうに日向ぼっこをしながら本を読んでいる姿をよく見かけるのである。又労力不足のこの国のことであるから、老人でも働く気になれば老人向きの仕事はいくらでもあるのである。従って働ける老人は皆それぞれ所を得て働いている様である。ホテルのボーイ等は殆んど御老人である。呑気に旅行しているのも亦御老人である。対象の面白い国であると思った次第である。

◎御婦人達

御婦人達は矢張り英国系の顔をしている。そう言うては悪いが余り美人は居ない様な気がする。美人の標準が何処にあるかむつかしい問題であるが、少くとも日本人の見る美人型では無い様である。エリザベス女王型が多く割合皆ツンとおすまし屋さんである。オフィスでは割合ニコニコとして居ても一歩外へ出たらツンとして1人のレディになってしまうのだから始末が悪い。仕事と社会人との区別は実にはっきりしているのには驚いた。オフィス帰りの娘さん達も外へ出れば立派な服装で決してオフィス帰り等には見えないのである。だから道でこんな御婦人にぶつかったりしたらそれこそ大変である。道路に出たらそれこそ腫れ物にさわる様にそっとしておかなければどんなことになるか判らないのである。レディ・ファーストの国は全く肩の凝ることである。その御婦人達が大きな買物籠をぶら下げて道を狭しと歩き廻るのであるから男たる者小さくなっていなければならない。

土曜日、日曜日と2日間はお休みであるが、この日は親父の厄日である。ウィークデーには職場で働き、休日には家庭で働くのである。庭の手入れや薪木作り自動車の掃除から、家の修理等一切が親父の休日の仕事なのである。年中そうでもあるまいけれども、とにも角にも家庭は御婦人の天下であるらしい。面白いのは酒は特別な日を除いては食事の時には一切飲まして貰えないそうである。飲みたい連中は職場の帰りにバーで一杯ひっかけて大急ぎで夕食のテーブルに間に合う様に帰って家族と一緒に食事をするのである。然しこんなに喧しい家庭でも寝酒の一杯だけは許可になるらしいところを見ると、寝酒の功德は知る人ぞ知るか。

この国の女の人は実にソバカスが多い。女の子など顔中ソバカスだらけで、これが大きくなったらどうなるの知らんと心配になる様なものがあるが、年頃になると割合目立たない処を見ると一寸はうすくなるものらしい。それにしても日本人の目から見ると実に眼障りである。これもお互いごつこと言うことになれば無い方が気がひけるのと同じ手かも知れない。

老婦人に口髭をはやしたのが実に多い。元来欧米人は髭が多いのが特徴であるが婦人の口髭には恐れ入った次第である。勿論男子の様に濃くはないが、相当長いのである。口髭の薄い吾々よりはるかに立派である。公園のベンチに腰を掛けてもっともらしい顔をして本を読んでいるお婆さんの顔をふと見たら見事な口髭を貯えているので一辺に吹き出してしまった。尤も口髭にカミソリをあてているのは街の女だけだそうであって、街の女の居ないこの国では老人に口髭があるのは当然であるかも知れない。と言うことで若い人の顔を見たら矢張りお化粧の下に髭があったのであるほどと感心をしたわけである。日本なら早速「家の女房にや髭がある」と言うことになりそうである。

ウィークデーにクラブへ行って遊んでいるのは御婦人連中ばかりである。ポーリングをしたり、デッキゴルフをしたり、テニスをしたり、なかなか運動がお好きである。運動でもしなければ肥えて困るのだそうである。中年になれば毎日体重計が気になるそうである。日本の御婦人と比べて何んと羨ましき限りである。

乗馬の上手なのにも驚いたのである。共進会場の競技場等で男子の選手と同資格で堂々と障害飛びをやって入賞をしているのである。女の子も負けないで乗馬をやっている。英国は乗馬の盛んな国とは聞いていたがこれ程とは思わなかったのであるが来てみてびっくりしたわけである。英軍が岡山に進駐していた当時盛んに競馬をやらされたが、あの時も婦人達が騎手になって必ず1レースはやったものである。それがなかなか上手で面白いレースをやっていたが、乗馬が彼等の重要なスポーツであってみればもっともな話であるわけである。

こう悪口ばかり書いて来たが、親切にして貰った御婦人達もあるのである。ナピアでは教会の老婦人が自分で自動車を運転して、お茶の会に迎えに来てくれるし、オーklandでも教会の婦人達は実に親切に取扱

岡山畜産便り 1956.03

ってくれたので婦人達に対する考えも相当変って来たのである。もうこれ位にして次に進みたい。

◎服装

服装は一般に質素であって、米国式な目立つものは非常に少い。御承知の様にこの国は英国系の人間であるので服装に対する礼儀はとても喧しい様である。然し若い者と老人では相当へだたりがあり、老人になる程むつかしい様で電車やバスの中等でも老人程キチンとした服装をしている。帽子を被っているのは取扱いも違う様で労働者でも半分以上は帽子を被っている。話しかけて来る時も帽子を被って居れば「サー」であるが無ければ「ユー」である。それ位服装は喧しいのである。然しこれも公式の場合と平日の場合であって、休日などは可成り自由の様である。土、日曜等の休日にはスポーツ向きの軽い服装で外出している。丁度時期が晩春から初夏であったので海水浴場等も相当な賑わいであったが、此処に集る人々は日本と同様で所謂略装でのんびりとしている様である。中にはショートパンツのまま電車に入って来る若い娘さんもあるといった風で、吾々の眼から見ると一寸奇異に感じた次第である。この服装も南島と北島では相当に差があり、南島は一般に地味であるが、北島特にオークランドあたりは諸外国の影響もあってかなり派手である。服地等はさすがに羊毛の産地だけあって所謂純毛製品であるが、面白いのは服地は殆んど英国製であって、この国で作られた服地は粗悪品が多い様である。即ち原毛をわざわざ英国迄送ってそれを加工し、高い製品を輸入しているのである。技術的にも亦生産能力も低く、労働賃金も高いので結局この国で生産するよりは買った方が安いのである。と言うのはこの国ではまだ服地は統制品であって、価格が最高1万1千円位で押えられているので下手な加工をしたのでは利益にならないのである。

学生達の服装は殆ど正服であって男子は大部分が半ズボンで派手な上着を着て帽子等も縁の短い野帽の様なものであったり、中にはカンカン帽を被っているものもある。体格の良い大男が半ズボンをはいて小さな帽子を被っている姿はなかなか愛嬌があつて一寸面白いものである。

ネクタイは一般は派手である。然も絹製品が喜ばれ

る様で一寸模様のはっきりしたものは殆ど絹である。土産用にとまって毛のものを採したのであるが、割合品数も少く、柄も少い様である。御婦人は老人になる程派手な服装になって来る様である。先にも書いた様にこの国の御老人達は実に旅行が好きである。旅行者の殆どが老人達であると言っても良いし、公園等で見受ける団体旅行者は必ずと言って良い位老人達である。若い内に働いて金を貯めて、年金や恩給が貰える様なれば夫婦連れで旅行でもしようと言うことであるらしい。この老婦人達が割合派手なのである。赤い原色の服を着たり、緑色のものを着たりしているが色の調和が良いのかおかしく感じない点は面白い。

労働者もサラリーマンも食堂のサービスガールもオフィスガールも職場と通勤の時とは全然服装が違っているのである。労働者達も背広でバスケットをさげ、自動車で行って来るのであるが、職場に来るとおもむろにバスケットの中から仕事着を出して着換え、それから仕事に掛るのである。お茶の時間が来ればこのバスケットから魔法壺を出してお茶を飲むと言った様なことで、全くのんびりしたものである。

誰かがアメリカでは乞食でもモーニングを着ていると言ったが、乞食の居ないこの国でも老人の貧しい人の中には山高帽を被って高いカラーで平気で居る人もあるのは面白いと思った次第である。山高帽を被ってパイプをくわえのんびり魚釣りなどをしている姿は一寸面白い風景である。

◎スポーツ

ニュージーランドのスポーツはなかなか盛んであり、種類も多い様である。一般的なスポーツにはクリケット、ゴルフ、庭球、フットボール等であるが、ボーリングとかデッキゴルフとか乗馬、ヨット、水泳等もなかなか盛んである。然し一般的なスポーツだけに誰もが出来る代りに特別上手な人も居ない様である。オリンピック大会ではむしろ日本の方が良い成績を挙げているが、スポーツの普及率から言えば問題にならない程高いのである。老人も婦人も大人も子供も喜んでスポーツを楽しんでいる様である。数年前にフットボールの選手団を英国に送って優勝したそうであるが、対外的に優勝したのは恐らくこれが最初だとのことで選手団は大歓迎を受けたそうである。

岡山畜産便り 1956.03

私達の最も驚いたことはこの国でも柔道が流行していることである。ウェリントンとかオークランドの様な大きな都市に行くと必ず柔道クラブがあり、毎週1-2回定期的に練習をしているのである。勿論畳等と言うものは無いのでコンクリートの上に大きなマットを敷きその上にテントの様なものを敷いてその上でやるのである。練習と言っても良い指導者が居るのでは無いので、本を読んだり、柔道の型の映画を見乍らその型通りに投げたり、投げられたりしているのである。従って彼等にとっては日本人は非常に大切な教師なのである。日本船が入ると誰か柔道の出来る人は居ないかと探しにやって来て、誰でも連れて行って臨時の教師にするわけである。吾々の一行にも黒帯が2-3人居たのでその連中と一緒に練習を見に行ったが、熱心なものには驚いた次第である。ウェリントンのクラブは「南十字星倶楽部」と印刷した名刺迄持っているのには驚いた次第である。

土曜日、日曜日は彼等のスポーツを楽しむ日である。海はヨットで一杯になり公園はクリケットの試合場となり、クラブはボーリング、デッキゴルフ、テニスの遊び場になるわけである。

競馬も盛んである。開催は土曜日の午後で、投票等もすぐ上に自動的に発表され、今どの馬に何票位投票されたから配当がいくらになると言った様な数字迄出ているので、その数字を見乍ら投票をするのである。日本の競馬とは大した差である。

◎アイ・ウォント・ペニー

自動車で旅行していると運転していたD氏が突然「アイ・ウォント・ペニー」と言って車を止めて出て行ってしまった。はて?と考えてみても判らない。1ペニーほしいと言うのである。何も1ペニー位ほしいのに外へ出なくてもよさそうに思っていると暫くして向うの木蔭からゆうゆうと帰って来た。そしてお前も行くかと言うのでハハアーとがってんしたわけである。それにしても何んと言ひ廻しのうまいことか。その後注意しているとジェントルマンと言ったり、木の下へ行きたいと言ったりしている。

町へ出てもジェントルマンとかレディとか書いてあるだけで結構判るのである。町へ出る時には必ず用を達して出ないと大変である。町にはジェントルマン

は至って少い。日本なら早速喫茶店にでも入る処であるがそんな処へ入っても用は達せられない。そんな時にはバーへ行けば必ず用は達せられるのである。彼等はお茶をよく飲むくせに袋が大きいのかあまりジェントルマンに行かない。日本人は袋が小さいのかすぐあちこちと探している。生理的要求であっても日本人には不便な国である。

私の寸描も来る処迄来たのでこの辺で失礼する。書きたいことはまだ沢山あるが又次の機会にしたい。